

桜守

(広報誌第七号)

財団法人

吉野山保勝会

長年にわたり、吉野山保勝会賛助会の会長として、吉野山の桜の保護育成にご尽力されました五條順教様が昨年6月にお亡くなりになり、変わって五條覚堯様が、先の賛助会役員総会の選任をへて、新しい賛助会会長に就任されました。

また、一昨年任期満了に伴い、(財)吉野山保勝会の会長が、前吉野町長 福井良盟氏から現吉野町長 北岡篤氏へ交代致しました。今号では、このご二人の、ご挨拶を中心に掲載させて頂きました。

ご挨拶 (財)吉野山保勝会 賛助会会長 五條覚堯 (金峯山修験本宗管長)



先代の会長である前管長の逝去に伴いまして、このたび会長をお引き受けいたしました。三十二年の間、吉野を離れておりましたので分からないところも多々ありますが、何分よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

吉野山が「紀伊山地の霊場と参詣道」として、世界遺産に登録されてから今年で五年目を迎えますが、本山では吉野大峯、熊野、高野山としてその関係社寺が協賛して記念事業等の計画を行っております。

最近、各方面からの取り上げもありまして、一般の方々からも注目を集めてまいりまして吉野山に足を運んで来られる方も増えてまいりました。昔から「遠くの神さんありがたい」といいますように、どうしましても我々日本人は地元の価値を過小に評価してしまうところがありますが、私が北海道に行ってから三十二年にもなりますが、ほとんどの方が吉野という地名にあこがれの気持ちをだいてくれており吉野山出身であることに誇りを感じさせてくれます。

毎年私は四月の花供会式に帰山しており、その年々の桜の花に出会えますがその年の桜の状態を問わず、問題なしに日本一の桜であると確信させられるのである。吉野山のこの地形、町並み、桜の種類とそしてなんといいましてもその数の多さが日本一の桜の園を醸し出しているのであろう。ところで現在、この桜が何らかの原因で元気がなくなっているということで、木の専門家にも依頼して調査をしてもらっているとのことですが、出来るだけ早く原因の究明と処置を施し桜を守ることが吉野山にとりましては最重要課題であると思ひます。世界遺産のことは今や世界中の人々にも関心が大きく、京都や奈良市にはたくさんの外国からの観光客が来ておりますが、それらの方々心地良く吉野山の観光が出来ているのかを考え、そのために何が必要であるかを考えることも大切なことであると思ひます。これは別に京都、奈良のまねをする必要はないと思ひます。先日、朝の勤行に見えられた二人のフランスの方は吉野山に来て初めて日本らしさを味わうことが出来たと喜んでおられた。奈良での修学旅行の多さと彼らの騒がしさを放任している周りの状態に少々がっかりしてきた後だったのでかえって新鮮だったのであろう。吉野山はご開祖役行者が乱れた世を救うために、ご本尊蔵王権現を祈り出されたのであります。そのため吉野は再生の地として往古より多くの人々の信仰を集めてきたところでありましてこの地の桜は蔵王権現のご神木としてひとりひとりが願ひを込めてお供えし植えてこらえて現在に至っているのであります。

桜を守ることすなわち吉野の歴史を守り後世に伝えていくことにもなるものと思ひます。吉野山の桜が元気になれば往古の人々がこの地に再生の力を得にきたように、吉野山に来られる多くの方々へ元気を与える地となるものと思ひます。そのためには、吉野山保勝会の建設的な働きが必要なこととあります。そして、保勝会の活動を支援するための賛助会も一層の充実をはかっていると思ひます。今後とも吉野の桜を守り育成するために多くの方々のご理解をいただき、ご指導とご支援を頂きますようお願いを申し上げます。

ご挨拶 (財)吉野山保勝会会長 北岡篤 (吉野町町長)



一昨年より、福井前会長の後任として会長職に就かせて頂きました北岡でございます。大正5年に、有栖川宮殿下を総裁と仰いで設立された歴史と伝統を誇る吉野山保勝会の会長職を汚すことの無いよう職責を果たしたいと存じておりますので、よろしくご支援下さいますようお願い致します。

さて、吉野朝宮址をはじめとする吉野の史跡名勝と、日本一と賞賛される吉野の桜を保全保護する当会の活動は、今、大きな岐路に立っています。吉野の史跡名勝や万葉の桜が、金峯山寺をはじめ地元の方々の熱い思いと、関係機関のご努力によって、平成16年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核的資産として登録されて以来、吉野山は世界の人々から脚光を浴びることとなりました。これは、当会にとりましても誠に喜ばしいことと存じます。一方、当会の必死の活動にも関わらず桜の衰退は留まることがなく、このことが読売新聞やNHKなどに報道され、その意味でも吉野山は多くの方々の注目を集めています。

世界遺産になったことと、桜の衰退という両面から衆目を集めている吉野ですが、同時にこのことは当会の活動が衆目を集めていることにほかにありません。殊に、桜の衰退については、当会の設立趣旨からして、それを何とか食い止め、活性化を計らなければなりません。ナラタケ菌の繁殖をはじめ、桜の樹勢を衰えさせる要因は幾つもあるでしょう。それらの要因に打ち勝つには、大変な労力と資金、それに時間がかかることと存じますが、当会として諦めることなく弛まぬ努力を続けなければなりません。

蔵王権現尊のご神木として、千年もの時を超え、護り続けられてきた吉野の桜を、今を生きる私たちは、千年後にも伝える使命を帯びているのではないのでしょうか。それを成すためには、当会の力だけでは到底及ばぬことと存じます。吉野の桜を護るために、何卒、吉野の桜を愛して下さる多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

◆◆◆ 賛助会会員募集中 ◆◆◆

財団法人 吉野山保勝会 〒639-3115 奈良県吉野郡吉野町吉野山 2430
TEL:0746-32-1877 FAX:0746-32-1217 E-mail hoshoukai@cap.ocn.ne.jp
URL: <http://www.yoshino.ne.jp/yoshinoyama/>

発行：(財)吉野山保勝会 総務部